スマトラオランウータン

HIGASHIYAMA

Summer 2016

ひがしやま37

名古屋市東山動植物園情報誌

東山動植物園 Higashiyama ZOO & BOTANICAL GARDENS

Topics アニまるっとZOOM 動物園トピックス

リスのアニマルパスウェイ

平成28年3月19日に動物園サポーターから小鳥とリスの森内に『リスのアニマルパスウェイ』を寄付して頂きました。

アニマルパスウェイとは、道路や線路などによって分断されてしまった生息域を樹上性の野生動物が交通事故に遭うことなく自由に往来できるようにする目的で作られた吊り橋を始めとした通り道のことです。小鳥とリスの森へ入ると、左前方に園路を跨いで架けられた総延長30メートルのアニマルパスウェイを見ることができます。

アニマルパスウェイは人と動物が共生するために設置される施設ですが、小鳥とリスの森では付属のリスレチックと合わせて空間を有効活用する施設としても役立っています。動物園サポーターの皆様、どうもありがとうございました。

（撮影／飼育第一係　江口　雄作
・文／指導衛生係　今西　鉄也）

アニマルパスウェイ拡大図

リスレチック拡大図

Contents

00 動物園トピックス「リスのアニマルパスウェイ」
01 動物園長のエッセイ「これからの動物園」
02 飼育レポート「飼育係が行く!小学校へのメダカ講座出張授業」
04 飼育だより
06 動物病院日誌　vol.37「モルモット舎改造計画」
07 植物園長のエッセイ「温室」
08 植物管理人だより
09 東山植物園のレッドリスト植物vol 11「スズカケソウ」
10 植物園「夏の花だより」
11 植物園トピックス「重要文化財温室の植物たち」

表紙／スマトラオランウータン
スマトラオランウータンのアキ（メス）です。東山動物園サポーターからいただきましたジャランジャランデッキがお気に入りの場所となりました。
（撮影・文／茶谷　公一）

裏表紙／カリアンドラ・セロイ（トキワネム）　*Calliandra selloi*(Spreng.)J.F.Macbr.
属名は「‘calli（美しい）’＋‘andros（雄ずい）’」からきており、花の特徴である美しい色をした雄ずいを指しています。‘トキワネム’の名前で流通しています。
（撮影・文／野村　幸央）

東山動物園サポーター募集中!!

動物園サポーター制度は、動物たちが豊かで充実した生活を送ることができるように、
飼育環境改善を資金面からご支援いただくものです。

サポーターの区分と金額		
個人	大人	3,000円以上
	中学生以下	1,000円以上
法人・団体		10,000円以上

サポーターの方に動物や東山動物園をもっと知っていただくために…
① 動植物園情報誌「ひがしやま」をお送りします。（4回）
② サポーターの方を対象にサポーター限定イベントを開催します。

個人10,000円以上、法人・団体50,000円以上ご支援いただいたサポーターは、氏名、法人・団体名を園内に掲示することができます。

申込方法

① **動物園内で手続きをしていただく場合**
動物会館図書室で申込書を記入の上、寄付金をお支払いください。

② **郵便振込で手続きをしていただく場合**
振込用紙をお送りしますので、動物園サポーター事務局までご連絡ください。
サポーター事務局／公益財団法人東山公園協会　動物会館　TEL052-782-2111（内線340）

動物園長のエッセイ

これからの動物園

4月から動物園長になりました黒邉です。私と東山動物園の最初のかかわりは昭和40年代にさかのぼります。当時はゴリラショーが人気でした。まだ就学前だった私は両親と観覧席に座りました。主役のゴリラは人垣で見にくかったのですが、初めて本物の野生動物を目の当たりにした興奮と感動は、今も鮮明な記憶として残っています。現在では考えられませんが、このゴリラ「ゴン太、オキ、プッピー」は1959年にアフリカのカメルーンからやってきた野生育ちのニシローランドゴリラでした。当時はまだワシントン条約のような野生動物の取り引きを制限する仕組みのない時代でした。

そして、2007年にタロンガ動物園からやってきた"イケメン"と話題のゴリラ「シャバーニ」。オランダ生まれのオーストラリア育ちで、日本で群れを率いるリーダーへ成長しました。57年前の3頭のゴリラと同じく海外から導入したゴリラで、大きな違いは野生由来でなく動物園生まれの個体であることです。ゴリラに限ったことではありませんが、今は動物園生まれが多くなっています。すなわち、野生から動物園に連れてくるのでなく、近年は動物園生まれの個体を野生に戻す研究や国内外のネットワークによる繁殖計画が進められるようになりました。

このように、これからの動物園は展示を楽しんでいただくだけでなく、野生動物の保全にも配慮しながら、繁殖を進めていくことが大切になると考えています。平成22年に本格スタートした東山動植物園再生プランは市民の皆さんのご理解により順調に進んでいます。次の整備施設はゴリラとチンパンジーの新居となる「アフリカの森」です。いよいよ今年度から建設に着手します。この新獣舎の一つの特徴として、欧米の動物園の飼育基準に適合した広さで設計されたことがあげられます。ゴリラとチンパンジーの生き生きとした姿を引き出す展示はもとより、群れ飼育も考慮された空間を確保し、さらには生息地に関する情報を提供して参ります。東山動物園は人と野生をつなぐ場として「野生を感じる動物園」を目指してさらに取り組みますので応援をよろしくお願いします。

（動物園長　黒邉　雅実）

奥は整備が進む「アフリカの森」の建設現場（平成30年度オープン予定）

飼育レポート

keeping report

飼育係が行く！
小学校へのメダカ講座出張授業

1 世界のメダカ館の環境教育

ニホンメダカ

世界のメダカ館は、その名のとおり日本や世界中に生息しているメダカの仲間を展示している世界でも唯一の水族館です。メダカの仲間はとても小さな種類が多く、世界的に生息数の減少が指摘されています。ニホンメダカも、みなさんもご存じのとおり平成11年に絶滅危惧種に指定されました。そのため世界のメダカ館では、ニホンメダカを活用して身近な水辺の環境と小さな命をテーマとした環境教育に力を入れています。今回はそのなかの一つ、飼育係が直接小学校に出向いて授業を行う「メダカ講座出張授業」の様子をレポートしたいと思います。

2 主に小学生を対象としたメダカ講座

環境教育「メダカ講座」は主に小学生を対象として行っています。これは、5年生の理科の授業「いのちの誕生」で主にメダカが題材として使われるためです。メダカの卵は透明で、小さな命が育っていく過程を直接観察するのに最適な教材です。そのため、世界のメダカ館には小学校からの受講申し込みが多数寄せられるようになります。私たち飼育係は、講座の内容レベルを小学生が十分理解できるように動画や写真等を多く活用してプレゼンテーションを作り、クイズもまじえて楽しく学んでもらうよう工夫して行っています。

講座で使用するスライドの一部

3 過去5年間のメダカ講座受講数

私が世界のメダカ館担当となった平成23年から平成27年度までの過去5年間のメダカ講座受講記録を整理すると、全部で37校の申し込みがあり、2896名の子供たちに受講してもらいました。そのうち私たちが直接学校へ出張したのは18校で、全体の48%になります。これは約2校に1校の割合で出張授業を行ってきたことになります。飼育係が環境教育の出張授業で小学校へ行くことはとても楽しくやりがいのある業務の一つです。小学校へ出向くと、子供たちからは「動物園の飼育係が来た!」と、どこでも大歓迎です。

●過去5年間での小学校メダカ講座の受け入れ状況

	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	合計
受講学校総数	7校	9校	7校	8校	6校	37校
出張授業回数	2校	4校	4校	5校	3校	18校
受講生徒数	661名	727名	454名	619名	435名	2890名

4 メダカ講座出張授業の内容

❶ 講　義

～メダカと水辺の環境、生物多様性について学ぶ～

メダカという小さな生き物について多角的に理解できるよう動画やスライドを駆使して生命の神秘性を学び、さらにメダカを取り巻く水辺の環境や生物多様性について楽しく学べるような内容となっています。またクイズをふんだんに取り入れて子供たちの興味を引くように楽しくメダカを学ぶことができるように工夫されています。

笑いあり、感動あり、最後に自分に何ができるか考えてもらう内容となっています。

楽しいメダカ講座の授業風景

❷ 体　験

～メダカの卵にさわってもらう～

メダカ講座で私たちがとても大切にしていることは、メダカの卵を持参し、実際に触る体験をしてもらうことです。

講座の最後に世界のメダカ館で飼育しているメダカたちが産んだたくさんの卵が付着した毛糸の束を見せ、子供たちに実際に卵をつまんでもらいます。受精卵の場合、メダカの卵は簡単にはつぶれないので大丈夫です。

子供たちは事前の講義で、卵の中で育つメダカのあかちゃんの様子をビデオで見て私の解説を聞いていますが、実際に卵を手に取ってじっくりと観察してもらうことで、2ミリにも満たない小さな卵の中に拍動する心臓や流れる血液を感じ、元気に育っている小さな命があるのを改めて感じることができます。この体験をとおして、子供たちが命の大切さと神秘性についてさらに深く考える場を提供します。

メダカの体の様子を説明

メダカの卵を指でつまんでみる

5 これからのメダカ講座

世界のメダカ館では、毎年とても多くの小学校や子供たちにメダカ講座を受講していただきました。中には毎年受講申し込みをしていただく学校もあります。それは、私たち動物園の飼育係が直接先生となって講座を行うことにとても大きな意味があるからだと思います。今は座学中心の講座内容ですが、今後はネイチャーゲームを取り入れてより楽しみながらメダカを中心とした生物多様性の大切さを学んでもらい、失われていく日本の水辺と環境について考えてもらう講座内容の構築をしていきたいと考えています。

（飼育第二係　水野　展敏）

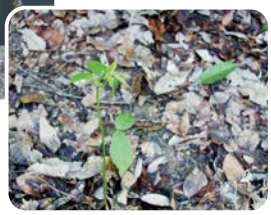
ニホンリスとオニグルミ

ニホンリスは日本固有の樹上性げっ歯類で、草食性で木の実や若葉を食料としています。習性として秋から冬にかけて食料を地中に埋めて貯めておく「貯食」という行動があるため、ニホンリスは地中に埋めても腐らない堅果(固い殻に覆われた木の実)を好んでよく食べます。なかでも「オニグルミ」という日本固有のクルミが大好きです。

オニグルミは秋に大量の実をつけ、ニホンリスもそれを大量に貯食します。貯食したものは冬に掘り出して食べるのですが、大体1割ほどが忘れ去られてしまうようで、春には忘れられたものが発芽します。オニグルミはニホンリスに食べられるだけではなく、自分の子孫を遠くの地域へ運んでもらう手段としてニホンリスを利用しているんですね。

ニホンリス

この共存関係は「小鳥とリスの森」でも見る事ができます。リスだけではなくオニグルミも探してみると面白いかもしれません。ちなみにドングリは渋みが強いのでニホンリスは好みませんよ。

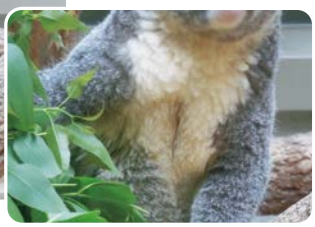


オニグルミ発芽

飼育第一係1班
加藤　俊紀

オトナへと成長中

チャーリー



チャーリーの胸元

成熟したオスのコアラの胸元には黒っぽく汚れたような部分が見られます。これは臭腺(しゅうせん)と呼ばれるもので、においの強い分泌物が出ています。オスのコアラはこの部分を周りの木などにこすり付けてにおいを残し、自分の存在やなわばりを示していると言われています。

コアラのチャーリーは今年の秋に2歳になる男の子です。コアラは2～3歳で性成熟を迎えますが、真っ白だったチャーリーの胸元にも次第に黒っぽい臭腺が見られるようになってきました。最近はオス特有のコールと呼ばれる鳴き方も見られ始め、だんだんと大人になってきていることを実感しています。

チャーリーは少し緊張しやすく慎重な性格で、まだまだ今はオスとして心許ない印象ではありますが、これから少しずついろんな経験を積み、将来はどっしり構えた落ち着きのあるオスになってくれるよう、成長を見守っていきたいと思います。

飼育第一係2班
山部　桂子

春の植栽まつり

今年もテポリンゴ(現地でのメキシコウサギの呼び名)の運動場にあるサカトン(現地での草の呼び名)を植え替える時期がやって来ました。

昨年より質・量ともにパワーアップしたサカトンを生長に適した場所等を考えながら、二人がかりで約3時間半かけて33ポット植えつけました。

順調に生長してくれるとテポリンゴにとって、とても有効な隠れ場、休憩場、食料等になってくれると思います。

そして、その先に「いい事」が待っていてくれていることを期待しています。

サカトン植え替え前

サカトン植え替え後

飼育第一係3班
上山　光喜

だ よ り

鹿児島のユーカリ

今年1月下旬に鹿児島を襲った寒波は、ユーカリに多大な被害を与えました。

1月からコアラの餌として出荷されるため、新芽も多く付け、枝も立派に伸びていたところに、寒波で降った雪が積もり、多くの枝が折れました。枝折れの被害もさることながら、雪で折れずにすんだ枝も、夜間のマイナス4度の寒さを受けたため、どんどん枯れこんでいきました。ミクロコリスやロブスタなどの品種では、枝だけでなく幹まで枯れこんだ株もありました。この被害は鹿児島でユーカリを栽培している他の園でも同様で、今冬は餌の確保に苦労しました。

雪の積もったユーカリ

鹿児島からの餌の納品は4月いっぱいまでです。4月後半に納品された餌の中には、例年に比べ芽のボリュームが少ない枝や、一度枝が枯れこんでから芽吹き直している枝が見られます。出荷されてくる枝がこんな状況では、株のダメージも計り知れません。今後の生育への影響や、来年1月の出荷までにいかにして株を回復させるか、今から頭の痛いところです。

飼育第一係4班
臼井　潔

至福のひと時!

スマトラオランウータンのアキ（メス）のある1日の様子です。落花生をおつまみに何か飲んでいるではありませんか!?まさか…!まさかの…!! ビールではありませんよ!!! 中身は、はちみつジュースです。この写真だけ見ると、お父さんの晩酌の様に見えますよね!私だけですか!?（笑）

ただ、アキは毎日このおつまみとはちみつジュースをもらえる訳ではありません。何故なら、このような高カロリーなものを毎日もらっていると、どんどんふくよかになってしまいますよね。ですから、この様なものはたまにあげます。何日置きとはではなく、サプライズ的な意味合いを込めて不定期にあげています。こんな日は、この様なものを見せるとアキは直ぐに催促の拍手やテンションMAXの時の「ブゥ～、ブゥ～」という声を発します（笑）。不定期にあげていますので、運の良い方はご覧いただけるかと思います。

飼育第二係1班
高倉　健一郎

オオサンショウウオの冬

東山動植物園ではオオサンショウウオを6頭飼育していますが、そのうち5頭は自然動物館2階の展示水槽で繁殖をめざし飼育しています（残りの1頭は屋外水槽で展示中）。この2階の展示水槽にはオオサンショウウオが繁殖できるように巣穴を設置してありますが、繁殖させる条件の中で一つ足りない環境要因がありました。それは水温管理です。

日本のオオサンショウウオの生息環境は、冬期の河川水温が10℃を下回り、最低3～5℃まで下がります。この冬場の水温低下が繁殖に重要な影響を与えるのです。

昨年度、待望の水槽用クーラーを設置することができ、水温を8℃まで下げることが出来ました。当園のオオサンショウウオにとって初めての低水温でしたので、餌を食べる量が減るなどして少し心配なこともありましたが、非常によい刺激になったことは間違いありません。繁殖期である8月～9月に産卵してくれることを願っています。

飼育第二係2班
藤谷　武史

動物病院日誌
Vol.37

モルモット舎改造計画

動物園で唯一、来園者のみなさまのお膝の上に乗せて触れ合うことのできる動物、モルモット。幼稚園や保育園の遠足やファミリー層はもちろん、癒しを求めてか大人にも大人気です。天気のよい土日祝日ともなれば行列のできる賑わいです。

そんなモルモットたち、以前は金網の小部屋で暮らしていましたが、怪我をしたり運動不足になったりと、健康面での心配がありました。

以前のお部屋

そこでモルモットの飼育環境の改善、ひいては来園者のみなさまに、より元気なモルモットと触れ合っていただくために、獣医師と飼育員が協力して獣舎のリフォームすることになりました。

ご覧の通り、床面積をいっぱいに使うことで、1頭当りの部屋の面積が格段に広くなりました。さらに足の怪我もなくなり、おがくずと敷きわらのいい香りの中、ゆっくり休めるようになりました。

リフォーム後のお部屋

のんびり横になってお休み中‥

疲れの見えるモルモットはふれあいのお仕事をお休みして、動物病院に隣接する非展示施設の草食獣舎で必要なら獣医師の治療を受けながらしばらくすごします。そして長期休暇の後、また皆様にお会いするためにこども動物園に戻ります。

バカンス中‥

（動物病院　田中　喜和子）

【動物取扱業登録】
名称:名古屋市、事業所の名称:名古屋市東山総合公園、事業所の所在地:名古屋市千種区東山元町3-70、動物取扱業の種別:展示、登録番号:第0701027号、登録年月日:平成19年6月1日、登録の有効期間の末日:平成29年5月31日、動物取扱責任者:黒邉　雅実

植物園長のエッセイ

温室

東山植物園の温室は、本格的「西洋式温室」として公共施設として日本で現存する最古のもの（昭和12年）であり、重要文化財として平成18年12月に指定されています。当時の名古屋市建築課の一圓俊郎技手が最新技術を用い設計した「我国最初期の鉄骨造構造温室建物、最初期の全熔接建造構造物」であることが重要なポイントとなっています。

かつて植物園の主な役割は珍しい植物を一般の方々に見てもらうことが目的であり、開園当時から保存していた温室内の植物（インドゴムノキ、シンノウヤシ、マルハチ等）の来歴から当時の日本で採取可能な南方から苦労して導入したものであろうと推測され、今では普通に見られる植物が当時大変貴重であったということを伺い知ることができます。

西洋では、産業革命以降、世界各地に赴くことができるようになり、世界の珍しい物を持ち帰る、特に動植物の採取を競いあうようになります。ヨーロッパにあるオランジェリーは、日照時間が短くビタミンなどが不足しやすいためにオレンジなどを栽培し寒さから守る施設が発達し、後の温室の原型となっていきます。また、植物を長期間生きたまま運ぶウオードの箱（テラリウム）が考案されると世界各地の生きた植物が欧州に運ばれるようになり、必然として、それらを暖かい環境で栽培する温室が発達していきます。

日本でも植物を寒さから守る温室のような「むろ」と呼ばれるものが存在していましたが、ヨーロッパから遅れること半世紀、明治期になってガラスが入ってくるようになると温室が盛んに作られ、本格的なものが、小石川植物園、新宿御苑、京都府立植物園、宝塚植物園（いずれも当時のものは現存せず）などに建設されその後の東山植物園の温室へとつながっていきます。東山植物園の温室は、イギリス　キュー植物園のパームハウスやドイツダーレム植物園のトロペンハウスなど当時の代表的な温室を手本としたといわれています。左右対称の均整の取れた形は当時「東洋一の水晶宮」といわれていました。

現在この文化財温室は、修理工事を行っています。ようやく解体が終わり今年から調査しながら建設当時の姿になるように慎重に復原していきます。長期間にわたりますが、建設当時の優美な姿を取り戻すのを楽しみにお待ちください。

（植物園長　藤井　辰則）

昭和12年当時の温室

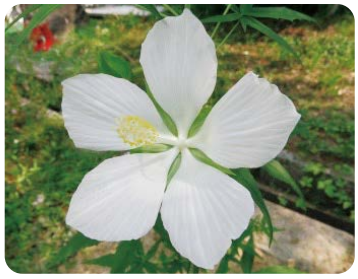
重要文化財温室（工事前）

植物管理人だより

アメリカ園 その2

夏の植物園では、暑さのせいもあり花数が減り、お客様も少なくなっていますが、その暑い中でも頑張って花を咲かせている植物があります。それらの植物を見られる一つの場所が、アメリカ産植物見本園の中央階段付近です。北アメリカ原産多年草のエキナセア プルプレア（ムラサキバレンギク）、そして花の咲き方（一重咲き、八重咲き、スプーン咲き）の違う園芸品種や、モミジの葉に似た葉を持つモミジアオイ、そのモミジアオイの中でも珍しい白花モミジアオイが涼しそうに咲いています。その他にもアメリカ園では、アメリカ系のアジサイや、ラッパのような花のアメリカノウゼンカズラなどの花も咲いています。夏の暑い中頑張って咲いてる植物が、植物園内にはたくさんあります。これから暑くなります。熱中症に注意して、暑い中咲く花たちを皆さん探してみて下さいね。

モミジアオイ


白花モミジアオイ

エキナセア プルプレア

エキナセア‘イエロー・スパイダー’

緑地造園係
水谷　靖広

植物の進化

植物園温室のハワイアンハウスで、“グネモンノキ”が初開花（H28.4.10）しました。この植物は裸子植物で、グネツム目（Gnetales）、グネツム科（Gnetaceae）、グネツム属（Gnetum）のグネモン（gnemon）という種です。学名で表記すると*Gnetum gnemon* L.（グネツム グネモン）となります。

植物は種を残すために胞子や種子を使います。裸子植物は種子植物（種子をつくる植物）で、種子植物は裸子植物と、被子植物に分けられます。

“グネモンノキ”の開花中の写真を見ると「これが花？」と思うような地味な花ですが、雄花であることが確認できました。この種は雌雄異株で、雌株と雄株があります。開花した株は雄花が咲いたので雄株です。裸子植物でよく知られているマツやスギは雌雄同株（雌花と雄花が同じ株にある）、ソテツなどは異株です。またマツやスギ、ソテツなどが針葉樹（葉が細い）、なのに対し本種が広葉樹（葉が広い）なのも植物の進化の中では面白いところです。受粉の仕組みも裸子植物の多くが風媒（風が受粉の手助けをする）なのに対し、本種は虫媒（虫が受粉の手助けをする）だと言われています。

地球環境の変化と共に植物は裸子植物や被子植物を誕生させますが、この種はその中間の種であると考えられています。

グネモンノキの雄花

グネモンノキのつぼみ

指導園芸係
市野　実

RED LIST Plant

東山植物園のレッドリスト植物 Vol.11

レッドリストとは、IUCN(国際自然保護連合)が刊行している、世界で絶滅の恐れがある野生生物種のリスト。各国の政府機関や地方自治体等で独自に作成している同様のリストもレッドリストと呼ばれる。日本の環境省の第4次レッドリスト(2012年8月)において、1,779種が絶滅の恐れのある植物種(維管束植物)として掲載。

スズカケソウ

分　類：オオバコ科

学　名：*Veronicastrum villosulum* (Miq.) T.Yamaz.

CR
2012 環境省 レッドリスト

絶　　滅（EX/EXTINCT）	絶滅が確認された
野 生 絶 滅（EW/EXTINCT IN THE WILD）	野生では絶滅した
絶滅危惧IA類（CR/CRITICALLY ENDANGERD）	**絶滅寸前の状態にある**
絶滅危惧IB類（EN/ENDANGERD）	絶滅する恐れが非常に高い
絶滅危惧Ⅱ類（VU/VULNERABLE）	絶滅の恐れが高い

高さ1m前後の多年草で、茎はツル状に伸び、葉は卵形で互生します。
スズカケソウは園芸植物として江戸時代から知られていて、花序の連なった姿が、山伏の鈴懸に似ているので鈴懸草の名がありますが、日本国内では自生地と認められる場所が非常に少ない状況もありレッドリストの中でも絶滅危惧IA類になっています。

夏頃には、写真のように葉の付け根に小さな花が集まって咲き、緑の中に青紫色を魅せてくれます。
東山植物園では宿根草園に展示しています。暑い時期ですが、是非、当園にお越しください。

（植物園　木口　将綱）

植物園 夏の 花だより

植物園 夏の湿地園

カキラン（柿蘭）
【6月～7月／湿地園】

日当たりの良い湿地に生育するラン科カキラン属の多年草。

カキラン（柿蘭）という名前の由来は花の色によるものです。

30～70cmほどに高く伸び、黄褐色の花を茎の先に10ほど総状につけ、下から開花してゆきます。花の唇弁には紅紫色の模様があります。

別名としてスズランといわれることもある様ですが、これはつぼみの時の花形が鈴に似ているからで、白く小さな花をつけるユリ科のスズラン（鈴蘭）とは全く別物です。

サギソウ（鷺草）
【7月～8月／湿地園】

ラン科サギソウ属の日当たりの良い湿地に生えるランの一種。

高さ30～40cmほどの茎を1本直立し、その先に1～4個の花をつけます。

サギソウ（鷺草）という名前は、白鷺が羽を広げたような花の形をしていることに由来します。園芸目的でも栽培されており、その歴史は古く、江戸時代前期には栽培されていたと言われています。

現在では生息地の開発と濫獲から、各地で個体数や生息地の減少が進み、環境省のレッドリストで準絶滅危惧種に登録されています。

ミソハギ（禊萩）
【7～8月／湿地園】

山野の湿地に生えるミソハギ科ミソハギ属の多年草。

茎は直立して高さ1m前後になり、花は葉のわきに3～5個集まって穂状につきます。

ミソハギは禊萩と書き、旧暦のお盆の頃に咲く花を盆花として仏前に供えられたことからその名がついたと言われています。そのため「盆花」「精霊花」などの別名もあります。

千屈菜（せんくつさい）と呼ばれ、下痢止めとして利用されることもあるそうです。

◆開花時期は昨年の開花状況を基準に掲載しています。気候によりずれることがあります。

Topics 木っとZOOM
植物園トピックス

重要文化財温室の植物たち

1937年（昭和12年）の開園と同時に東山植物園温室（前館）はオープンしました。「東洋一の水晶宮」と称され、その後に増設された温室群（後館）を従え、現在も東山植物園の象徴です。日本国内に残っている公共の温室としては最も古く、国の重要文化財に指定されています。

建設から70年以上経ち鉄骨の傷みも激しくなったため保存修理工事が行われることとなり、平成25年秋までに植物の引っ越し（移植）をしました。

大きな植物たちは、バックヤードの保管温室に移っています。残念ながら枯れてしまった種や、調子が良くない種もありますが、多くの植物は現在も元気です。

普段は、ご覧いただけないのでのですが、‘春まつり’や、‘秋まつり’に、短時間ではありますが保管温室の公開イベントを行っています。これまでに、ご覧いただいたお客様もおられると思いますが、今後も公開イベントを開催していきたいと考えていますので、ぜひご参加ください。

残念なのは、植物の開花や結実などは、イベントのタイミングにあわせてくれないこと。少しですが、写真でご紹介させていただきます。

保管温室公開イベント

ベンガルヤハズカズラ (H26.11.16)

オガサワラビロウ (H27.2.28)

オビレハリクジャクヤシ (H27.3.31)

フタゴヤシ (H27.10.2)

ブッドレア (H28.4.10)

カラタネオガタマ (H28.4.10)

ピンポンノキ (H28.4.10)

今後は、修理工事後の温室に戻る計画づくりや、再度の移植準備を、少しづつ進めてまいります。

カリアンドラ・セロイ

HIGASHIYAMA

Summer 2016

ひがしやま37

名古屋市東山動植物園情報誌

東山動植物園 Higashiyama ZOO & BOTANICAL GARDENS